せんば適塾

大阪から繊維革新

10月4日に産地合同展

大阪の繊維ファッション産業の新生を目指す有志が連携して2010年に結成された「せんば適塾」。本来、大阪が持つ繊維ファッション産業の基盤を生かしつつ、連携によって新たなイノベーションを発現することを目指している。10月4日には設立2周年記念イベントと産地合同展示会を開く。

せんば適塾の世話人の一人である窪添道朗氏（インパナトーレ窪添代表）は「大阪には元々、紡績・合繊メーカー、商社・コンバーター・産地があり、ファッション教育機関からメディアまでそろっている。しかし、これらが連携できていないところに問題がある」と指摘する。従来は大手素材メーカーや商社が各工程の取りまとめを行っていたが、国内で流通する繊維製品が輸入品中心となるなかで、こうした取りまとめ機能を喪失したことが大阪の繊維ファッション産業の地盤沈下につながったとの見方だ。

一方、日本国内での繊維製品消費は小売り段階では1990年代から大きく減少していないにもかかわらず、業界の疲弊が進んだことに対して「90年代から業界構造が大きく変化した。業界構造の移行に対応した企業が生き残り、対応できなかった企業が退場していった」と指摘する。

こうした観点から、せんば適塾では関西の川中製造業・コンバーター・アパレル・教育機関やメディアが連携することで自立的に各工程を連動させ、現在の繊維産業の構造に対応することを目指してきた。

10月4日には設立2周年記念イベントとして産地合同展示会と「関西発繊維ファッション産業の挑戦」をテーマに特別講演会を開く。講師にはファッションデザイナーの小篠ゆま氏、ファイブワンファクトリーの森俊彦社長を招く。産地合同展示会は前回まで大阪府下の産地企業が中心の出展だったが、今回から湖東産地、京都金銀糸産地、和歌山ニット産地、奈良靴下産地、播州産地、高野口パイル産地などからも出展する。出展企業は次の通り。

滋賀麻工業、麻絲商会、林与、泉工業、昇苑くみひも、西垣靴下、風神莫大小、オーヤパイル、敷幸、大城戸織布、大正紡績、和紙の布、大津毛織、樽井繊維工業、三恵メリヤス、タニガワ、シゲマツなど。展示会・講演会参加費は無料。問い合わせ・申し込みは、協同組合関西ファッション連合内「せんば適塾」事務局（電話06・6228・6525）西田氏まで。

「大阪には元々、紡績・合繊メーカー、商社・コンバーター・産地があり、ファッション教育機関からメディアまでそろっている。しかし、これらが連携できていないところに問題がある」と指摘する。従来は大手素材メーカーや商社が各工程の取りまとめを行っていたが、国内で流通する繊維製品が輸入品中心となるなかで、こうした取りまとめ機能を喪失したことが大阪の繊維ファッション産業の地盤沈下につながったとの見方だ。

一方、日本国内での繊維製品消費は小売り段階では1990年代から大きく減少していないにもかかわらず、業界の疲弊が進んだことに対して「90年代から業界構造が大きく変化した。業界構造の移行に対応した企業が生き残り、対応できなかった企業が退場していった」と指摘する。

こうした観点から、せんば適塾では関西の川中製造業・コンバーター・アパレル・教育機関やメディアが連携することで自立的に各工程を連動させ、現在の繊維産業の構造に対応することを目指してきた。

10月4日には設立2周年記念イベントとして産地合同展示会と「関西発繊維ファッション産業の挑戦」をテーマに特別講演会を開く。講師にはファッションデザイナーの小篠ゆま氏、ファイブワンファクトリーの森俊彦社長を招く。産地合同展示会は前回まで大阪府下の産地企業が中心の出展だったが、今回から湖東産地、京都金銀糸産地、和歌山ニット産地、奈良靴下産地、播州産地、高野口パイル産地などからも出展する。出展企業は次の通り。

滋賀麻工業、麻絲商会、林与、泉工業、昇苑くみひも、西垣靴下、風神莫大小、オーヤパイル、敷幸、大城戸織布、大正紡績、和紙の布、大津毛織、樽井繊維工業、三恵メリヤス、タニガワ、シゲマツなど。展示会・講演会参加費は無料。問い合わせ・申し込みは、協同組合関西ファッション連合内「せんば適塾」事務局（電話06・6228・6525）西田氏まで。

「大阪には元々、紡績・合繊メーカー、商社・コンバーター・産地があり、ファッション教育機関からメディアまでそろっている。しかし、これらが連携できていないところに問題がある」と指摘する。従来は大手素材メーカーや商社が各工程の取りまとめを行っていたが、国内で流通する繊維製品が輸入品中心となるなかで、こうした取りまとめ機能を喪失したことが大阪の繊維ファッション産業の地盤沈下につながったとの見方だ。

一方、日本国内での繊維製品消費は小売り段階では1990年代から大きく減少していないにもかかわらず、業界の疲弊が進んだことに対して「90年代から業界構造が大きく変化した。業界構造の移行に対応した企業が生き残り、対応できなかった企業が退場していった」と指摘する。

こうした観点から、せんば適塾では関西の川中製造業・コンバーター・アパレル・教育機関やメディアが連携することで自立的に各工程を連動させ、現在の繊維産業の構造に対応することを目指してきた。

10月4日には設立2周年記念イベントとして産地合同展示会と「関西発繊維ファッション産業の挑戦」をテーマに特別講演会を開く。講師にはファッションデザイナーの小篠ゆま氏、ファイブワンファクトリーの森俊彦社長を招く。産地合同展示会は前回まで大阪府下の産地企業が中心の出展だったが、今回から湖東産地、京都金銀糸産地、和歌山ニット産地、奈良靴下産地、播州産地、高野口パイル産地などからも出展する。出展企業は次の通り。

滋賀麻工業、麻絲商会、林与、泉工業、昇苑くみひも、西垣靴下、風神莫大小、オーヤパイル、敷幸、大城戸織布、大正紡績、和紙の布、大津毛織、樽井繊維工業、三恵メリヤス、タニガワ、シゲマツなど。展示会・講演会参加費は無料。問い合わせ・申し込みは、協同組合関西ファッション連合内「せんば適塾」事務局（電話06・6228・6525）西田氏まで。